

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number : 10-001417
(43) Date of publication of application : 06. 01. 1998

(51) Int. Cl. A61K 7/00
A61K 7/48

(21) Application number : 08-174188 (71) Applicant : KANEBO LTD
(22) Date of filing : 12. 06. 1996 (72) Inventor : SAITO MASAHIRO
KURODA AKIHIRO

(54) SHEET-SHAPED PACK MATERIAL**(57) Abstract:**

PROBLEM TO BE SOLVED: To prepare a sheet-shaped pack material, excellent in the effect for preventing the adhering of a sticky resin to fingers by subjecting both the obverse side and the reverse side of a peel off-type sheet-shaped pack material to a water repelling treatment.

SOLUTION: This peel off-type sheet-shaped pack material is treated with a water repelling agent both on the surface closely adhering to the skin and the surface of the opposite side. The thickness of a tacky agent layer of the pack material is preferably 10-2000 μ m. As a method for the water repelling treatment, it is cited that a sheet-shaped pack material is prepared, and subsequently a water repelling agent (preferably, a perfluoroalkylated resin, a perfluoroalkylsilane, etc.) is applied on both the surface closely adhering to the skin and the surface of the opposite side, etc. The amount of the water-repelling agent to be applied is preferably the amount achieving a contact angle of 60 degree, preferably 90 degree when water is used. Thus obtained pack material is excellent in the activity for removing sebum and aged keratin, and effective for preventing fingers from being soiled.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's
decision of rejection]

[Kind of final disposal of application
other than the examiner's decision of
rejection or application converted
registration]

[Date of final disposal for
application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of requesting appeal against
examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998, 2000 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-1417

(43) 公開日 平成10年(1998) 1月6日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 7/00			A 6 1 K 7/00	L
				U
7/48			7/48	

審査請求 未請求 請求項の数 1 F D (全 3 頁)

(21) 出願番号	特願平8-174188	(71) 出願人	000000952 鐘紡株式会社 東京都墨田区墨田五丁目17番4号
(22) 出願日	平成8年(1996) 6月12日	(72) 発明者	斎藤 雅人 神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘 紡株式会社化粧品研究所内
		(72) 発明者	黒田 章裕 神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘 紡株式会社化粧品研究所内

(54) 【発明の名称】 シート状バック料

(57) 【要約】

【課題】 角栓や老化した角質を除去する効果に優れ、かつ指が汚れないシート状バック料を提供すること。

【解決手段】 ビールオフタイプのシート状バック料であって、肌に密着する面と反対の面が撥水化处理されていることを特徴とするシート状バック料。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ピールオフタイプのシート状バック料であって、肌に密着する面と反対の面が撥水化处理されていることを特徴とするシート状バック料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、角栓や老化した角質を除去する効果に優れ、指が汚れないピールオフタイプのシート状バック料に関する。さらに詳しくは、肌に密着する面と反対の面を撥水化处理することで、指に粘着性樹脂が付着することを防止したピールオフタイプのシート状バック料に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、角栓を除去することを目的にしたピールオフタイプのシート状バック料が種々考案されている。このシート状バック料の一般的な使用方法としては、鼻などの毛穴の汚れが目立つ部位に水やローションを塗布し、この上からシート状バック料を密着させ、乾燥させた後に、同シート状バック料を剥離し、角栓や老化皮膚を除去する方法が挙げられる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、水やローションの量が少なかった場合には、角栓や老化皮膚の除去能力が大幅に低下する場合があります。また逆に水やローションの量が多かった場合では、乾燥時間が長くなる、粘着剤が溶け出してシートから分離するなどの問題があり、水分量のコントロールが汚れの除去能力を決める重要な要因となっている。しかし、使用者が自分で水分量をうまくコントロールすることは難しく、汚れの除去がうまく行かない場合も多かった。さらに、水が多すぎた場合や手が濡れていた場合には、バック料表面を指で押さえたりしたとき、指に高粘性の粘着剤が付着してしまうことがあった。

【0004】

【課題を解決するための手段】この問題を鑑み、本発明人らは鋭意研究した結果、ピールオフタイプのシート状バック料であって、肌に密着する面と反対の面が撥水化处理されていることを特徴とするシート状バック料が、指への粘着性樹脂の付着防止効果にすぐれることを見いだした。すなわち、本発明は、ピールオフタイプのシート状バック料であって、肌に密着する面と反対の面が撥水化处理されていることを特徴とするシート状バック料である。

【0005】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を詳述する。本発明で用いるピールオフタイプのシート状バック料は従来公知のシート状バック料を用いることができる。シート状バック料は、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドン、カルボキシメチルセルロース、酢酸ビニル、アルギン酸、アクリル樹脂、スチレン樹脂など

の従来公知の粘着剤層を有し、シート状に成形されたもので、さらに不織布や織布などの支持体を設けてあっても構わない。

【0006】また、鼻等の形に事前に加工してあっても、鼻の頭等の部位に細孔の密度を多くするなどの工夫がされていても構わない。

【0007】本発明のバック料における粘着剤層の厚さとしては、10～2000μmが好ましい。

【0008】本発明で用いるシート状バック料では、従来化粧料に使用されてきた各種の素材、例えば油剤、粉体（顔料、色素、樹脂）、フッ素化合物、樹脂、界面活性剤、粘剤、防腐剤、香料、保湿剤、生理活性成分、塩類、溶媒、酸化防止剤、キレート剤、中和剤、pH調整剤等の成分を同時に配合することができる。特に、平均粒子径5～300nmの微粒子酸化チタン、無水珪酸などの微粒子粉体を配合することが好ましい。

【0009】本発明のシート状バック料は、肌に密着する面と反対の面が撥水化处理されていることを特徴とするが、撥水化の方法としては、シート状バック料を作製し、肌に密着する面と反対の面の上から、撥水化剤を処理する方法や、事前に撥水化处理を行った織布や不織布、紙などの保持剤に上記粘着剤層を密着、接着または結合させる方法が挙げられる。

【0010】本発明で用いる撥水化剤としては、パーフルオロアルキル化アクリル樹脂、パーフルオロアルキルシリコン樹脂、パーフルオロアルキルシラン、アルキルアルコキシシラン、シリコン樹脂等が挙げられるが、撥水性の高いフッ素化素材であるパーフルオロアルキル化アクリル樹脂、パーフルオロアルキルシリコン樹脂、パーフルオロアルキルシランが好ましい。

【0011】撥水化剤で処理を行う方法としては、処理を行うシート状バック料や保持剤の上にアルコール、環状シリコン、軽質流動イソパラフィン、ヘキサン等の溶媒に溶解した撥水化剤を塗布し、これを乾燥する方法が挙げられる。

【0012】撥水化剤の塗布量は撥水化剤の種類や処理物の表面状態によって異なるが、水を用いた場合の接触角が60度以上、さらに好ましくは90度以上となる処理量が好ましい。60度未満では、手に粘着性樹脂が付着してくる場合がある。

【0013】

【実施例】以下、実施例及び比較例によって本発明を詳細に説明する。

【0014】実施例及び比較例で用いたバック料の評価は、各種肌症を有するパネラー10名に対して実施例および比較例で示した化粧方法にてバック料を使用してもらい、その結果をアンケート形式で集計した。結果はパネラーの内の何名が各評価項目に対して優れている、またはやや優れていると回答したかを示している。

【0015】実施例1

次の処方を用いて次の操作によってシート状バック料を調製した。

【0016】

1. ポリビニルアルコール	8.0重量%
2. ポリビニルピロリドン	2.0
3. ポリアクリル酸Na塩	5.0
4. プロピレングリコール	2.0
5. グリセリン	1.5
6. 微粒子酸化チタン（平均一次粒子径35nm）	12.0
7. カラギーナン	0.2
8. エチルアルコール	20.0
9. 防腐剤	適量
10. 精製水	適量
合計	100.0

【0017】成分1～10を加熱混合し、バック原液を得た。一方、ポリエステル製不織布の片面に、パーフルオロアルキル化アクリル樹脂を軽質流動イソパラフィンおよび石油エーテルに溶解させた溶液をスプレー塗布し、溶媒を完全に乾燥させ、撥水化不織布を得た。この時、水の接触角は90度以上であった。撥水化不織布にバック原液を塗布し、ローラーを用いて厚さ0.7mmの均一面を形成した。これを適当な大きさに切断し、シート状バック料を得た。

【0018】比較例1

実施例1の撥水化不織布の代わりに、未処理不織布を用いた他は全て実施例1と同様にして比較例としてのシート状バック料を得た。

【0019】実施例および比較例のシート状バック料を用いて、石鹸洗顔後に鼻部に水を塗布した上からシート状バック料を圧着し、20分間その表面を手で擦り、鼻にシートを密着させた後、剥離した。評価結果を表1に示す。

【0020】

【表1】

評価項目	実施例1	比較例1
角栓がよく除去できる	7	7
使用後のさっぱり感	7	3
使用後の指の汚れがない	10	3

【0021】表1の結果より、本発明の実施例のシート状バック料は比較例のそれと比べて角栓除去効果は同等でありながら、手の汚れが発生しなかった。これに対して比較例のシート状バック料は、シート表面を触っている内にシート表面に粘着剤が染みだし、指に粘着剤が移ってしまった。

【0022】

【発明の効果】以上のことから、本発明は、角栓や老化した角質を除去する効果に優れ、かつ指が汚れないシート状バック料を提供することは明らかである。